高Ｐ連 ひょうご

発　行　兵庫県公立高等学校
ＰＴＡ連合会
事務局　〒650-0012　神戸市
中央区北長狭通5丁目5番12号
兵庫県土地改良会館2階
兵庫県公立高等学校PTA連合会
TEL (078) 371-7080
FAX (078) 371-0056

「歴史も風土も違えども」

兵庫県公立高等学校PTA連合会
会長　芳本和尚
（県立加古川東高等学校PTA会長）

兵庫県公立高等学校PTA連合会は、公立高等学校教育の振興に協力し、会員の研修や相互の連絡と親睦を目的とする組織です。現在、兵庫県内の公立高校143校のPTA・育友会が加盟しています。ご承知のとおりPTAは学校運営において教職員と保護者が協力し、子どもたちの良い教育環境を整えるために活動する社会教育関係団体です。それぞれの生徒が抱く大きな夢の実現に向けて、進学や就職指導において最新で必要な情報や手段を共有し、彼らが自分の道を見つける力を育てることが求められています。

我々の住む兵庫県は、摂津・播磨・丹波・但馬・淡路という歴史も風土も異なる個性豊かな五国から成り立っています。また本連合会はさらに神戸・阪神・丹有・東播磨・西播磨・但馬・淡路の７つの地区で構成されています。各地区や学校を取り巻く環境は異なりますが、同じ高校生を持つ親同士、その健やかな成長を願う気持ちは共通していると思います。これまでも多様な地域が関わり合い、補完し合って発展してきた経緯があることから、PTA活動を通じて活発な交流を行うことで、新たな力を生み出し、地域に活力をもたらすものと考えています。

その交流活動の集大成ともいえる本連合会研究大会・PTCA全県研究大会が12月２日（土）に開催されます。この大会は淡路市の淡路高校を主管校とし、淡路地区の各PTAや校長会のご協力を得て、淡路市のしづかホールで行います。神戸地区から夢野台高等学校、阪神地区から県立伊丹高等学校、丹有地区からは柏原高等学校のPTCA活動の成果が発表されます。大会に携わられた皆さまには、開催に向けてのご尽力に感謝申しあげます。この大会が実り多きものになりますよう期待しています。

さて、ようやくコロナウイルスの影響が収まりつつあり「３年振りの開催!」という言葉を目にすることが多くなりました。久しぶりにリアルな会議や研修会に参加する機会が増え、お互いの顔を見て会話する交流の大切さを実感しています。PTAは多様な人々の集まりであり、何よりもコミュニケーションが重要ですのでオンラインだけではどうしても限界があります。議論が深まりにくかったり、会場の雰囲気や人間関係の構築が難しかったりする課題もあります。しかし、オンライン化は会議の見直しや経費節減、移動や会場設営にかかる時間の節約、また遠方でも参加できるメリットがあります。そのため、持続可能なPTA組織の運営のために「リアル」と「オンライン」をミックスした会議や研修会の有効性について研究を進める必要があると考えています。

また、いよいよ2022年４月に新学習指導要領がスタートし「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の３つの観点による評価が本格化しました。特にGIGAスクール構想により１人１台の情報端末が提供され、個別・最適な学びと協働的な学びを組み合わせた充実した授業が始まっています。こうした教育のデジタル化は、高等教育の価値向上とデータサイエンスやAIを扱う能力の育成を目指していますが、チャットGPTなどの生成AIが普及し始めており、子どもたちを取り巻く環境や生活様式が大きく変化しようとしています。このような状況において、社会の中で生きるために何を理解して何ができるのか、学んだことを生かしてどのように社会と関わりを持つのか、いわゆる「生きる力」を育むため、PTA活動はますます重要になると考えています。今後もPTA活動に寄せられる保護者や地域の方々からの期待に力強く応えていけるように、各地区や学校と連携し子どもたちが素晴らしい高校生活を送れるように活動していきたいと思います。

高校時代の経験や感動、友情は一生の宝物です。子どもたちが個性や才能を伸ばし、明るい未来を創造することをサポートするため、皆さまの活動におきましても「PTAと学校が手を組み、21世紀の若者をたくましく、正しく育てる」という本連合会の趣旨を生かしていただき、未来を担う世代の育成にご協力いただきますようお願いいたします。

PTA活動を楽しもう

県立神戸甲北高等学校

神戸甲北高校は、昭和49年に普通科として開校され、平成９年には県下初の総合学科となりました。そして更なる発展に向けて、令和７年に神戸北高校との統合が決まりました。その中で今年令和５年、本校は創立50周年を迎えます。神戸甲北としての周年記念は最後になります。この式典を滞りなく進行できるように願っております。

コロナの影響で、本来のPTA活動が制限されている中、今年度より少し緩和され、甲北祭では制服のリユース販売を行うことができました。昨年までは保護者は３年次限定でしたが、今年は全学年の保護者が参加できるようになり、子供たちの舞台発表や芸術作品観賞ができ、学校生活に触れることができたと思います。

現在のPTA本部役員は子供たちが入学してからのPTA活動を知りません。私自身も学校と相談したり、今までの活動を知っているPTA事務局の方に聞きながらの活動になっています。今年の体育祭はPTA競技を復活させ、玉入れを行う予定です。無邪気な子供の頃に戻って楽しみたいと思います。

甲北のPTAはできる範囲で無理なく活動できるように心がけています。私たち保護者が楽しんで活動することで、子供たちにも笑顔の連鎖が広がっていくと思います。先日の全国大会（宮城）に副会長の辻野さんと参加してきました。分科会はグループワークで他県の方との交流が図れ、とても有意義に過ごせ時間がたりないくらい話が盛り上がりました。PTAは「Pぱっと、T楽しく、A遊びましょう」の会ですと聞き、なるほどなと感じ、今後の活動にぜひ活かせていきたいと思います。

（PTA会長　香山　和美）

「主体的に考え、判断し、行動できる人材」を育む

県立須磨東高等学校

本校は、昭和53に開校し昨年、創立45年を迎えました。校訓である「立志」「誠実」「努力」の精神を基盤として、秩序立てて事に当たる合理的な資質、物事に熱意をもって主体的に挑戦し貫徹する姿勢、他者に共感し思いやることのできる包容力ある態度を培い、実社会への応用を視野に入れた「確かな学力」と「豊かな人間性」とを備えた人材を養います。そして、未来を切り拓くことを志向し現代の課題を発見して解決に向け、行動できる「考える人」を育てることを教育方針に掲げています。

昨年からは学校行事も保護者の参加機会も回復して来ました。本年６月の文化祭「生鷹祭」では、子どもが主体的に考え、限られた時間の中で準備をし、当日の生き生きとした姿に感動と喜びを感じました。また、PTA活動におきましてもCafé の出店でパンと飲料の販売と、制服のリユース販売を行いました。

PTA活動におきましては、子供たちの学校生活の支えになるように、先生方とも連携させていただき、私たち保護者も主体的に出来る事から活動をして行きたいと考えております。その一環として本年から、「れんらくアプリ」を導入させていただき、学校と生徒、保護者の連絡の効率化や確実さに役立っています。今後は、PTA活動のコミュニケーション手段として、より良くれんらくアプリを活用してまいりたいと思います。

（PTA会長　藤原　章平）

これからのPTA･育友会活動を考える

県立須磨友が丘高等学校

昨今、PTAに関して様々な変化を報道で、また身近な市や県のなかでも耳にします。市や県のPTA連合会から脱退する学校の増加、また学校単体のPTAや育友会に参加することを拒否する保護者の方がいらっしゃるといった、どちらかというとネガティブな変化です。ただ、PTA、育友会の活動自体が任意であることを踏

まえると、時代の変化とともにこのような動きや変化があったとしても不思議なことではないように思われます。

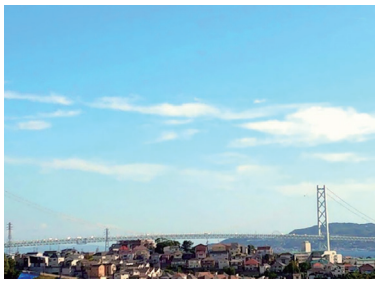
そもそもPTAの目的とは何なのでしょうか。本校の会則には、「家庭と学校と地域が連携して、子ども達の健全な育成に努める」、「会員相互の親睦を深め、かつ地域の社会教育の推進に寄与する」などとあります。文言や表現は多少違うかもしれませんが、ほぼ全てのPTAにおいてこの２点が主たる目的として掲げられているはずです。子ども達の学校生活が安心、安全で、より充実したものになることを望まない保護者がいるとは思えませんが、現状ではPTA活動の必要性に疑念を抱いたり、拒絶される方々がいらっしゃいます。理由は様々考えられますが、具体的に挙げるとすれば、過去の活動を踏襲することが前提となってしまって時代の変化に即していないことや、保護者都合の活動になってしまい、本来の目的からずれてしまっていることではないでしょうか。私個人の意見で僭越ですが、全国や県、市の連合会の活動のなかにも、疑問を抱くものがあるのも事実です。

ただ、これからもPTA、育友会は大切な役割を担う団体として活動していくべきだと考えています。教職員の方々に任せっきりにするのではなく、保護者も当事者として参画すべきだと思います。これからも存続していくためにも、過去踏襲型ではなく子ども達の安心、安全な成長の下支えとなる団体として、誰のための活動なのかと、本来の目的に真摯に向き合うことが必要ではないでしょうか。

（育友会長　谷山　貴彦）

50周年と発展的統合

県立伊川谷高等学校



神戸市西区の丘陵地から明石海峡大橋を臨む本校は「自主・協同」の理念をもとに主体性や創造性をはぐくむ教育を推進しています。また、神戸学院大学やコープこうべとの連携協定により地域に根差した教育活動も展開しています。令和７年には創立50周年を迎えるため神戸文化ホールにて記念式典の開催を予定しており、実行委員会が発足され動き始めました。

さて、新型コロナウイルスの影響でやむなく中止や縮小の措置をとってきた学校行事ですが、段階的な復活やオンラインから対面への移行など、特に今年度はコロナ禍以前の動きへと戻りつつあるように思います。過去の活動内容からの変更点が多々あり戸惑いをおぼえることもありますが、協議会や関連大会へのオンライン参加（交通費の削減）や総会の書面決議（保護者の負担軽減）等、活動縮小時期に生まれたメリットは今後の活動にも反映させていきたいです。

本校PTAでは過去20年間という長い期間に渡り地域の美化啓発イベントに参加してきましたが、「真夏の炎天下を１時間かけて清掃しながら歩く」という活動は昨今の気象状況や医療事情を鑑みて積極的に行うべきではないと判断し、当該活動は廃止。今後は協賛のみ継続するよう変更しました。６月に行われた文化祭においては制服や体操服のリサイクル活動と模擬店（お菓子のつかみ取り）を出店しました。まだまだ制約のあるなかでの開催でしたが、生徒の笑顔に満たされたすばらしい一日を過ごすことができました。準備と運営にご協力いただきました委員の皆様には心より感謝申し上げます。

創立50周年を目前に控えた本校ですが、この同年には伊川谷北高等学校との「発展的統合」が決まっています。在校生はもちろん、たくさんの卒業生や地域の皆様にとってもこのたびの決定には驚きや名残惜しさと共に、いつもそこにあった校舎や生徒の通学風景が大きく変化する寂しさ、万感の思いがあることでしょう。２校それぞれの特色や伝統を引き継ぎながらこれからの時代に寄り添う新しい学校の開設と、その明るい未来に期待しています。

（PTA会長　澤口　佳代）

輪番という強制 子どもファーストという人質意識

県立尼崎高等学校

誤解を恐れずに書きますと…

PTA、育友会に対する会員さんからの不平、不満存在意義について各校色々な課題を抱いているかと思います。

私自身、尼崎市内の中学校を経て高校と計８年会長職に就いています。そのうち３年ほど市連の役員、補佐なども兼務しました。

その中で声高にずっと言い続けていること、それは「嫌ならやめようPTA」

入学説明会や入学式など保護者の多くに訴えかけるタイミングがあるたびに言い続けています。

善意による任意団体と考えているPTA。無理にする必要があるでしょうか。

「子どものためだから」という言葉も捉え方によっては脅迫めいたものにならないか。本当にその活動が必要か？ 本当に子どものためになっているか？ 長年やっているし、多くの人がやっているから、そんな理由で活動していないか。

コロナ禍で多くの活動が出来なくなって、そこで感じませんでしたか？ 本当に必要な活動とそうでないもの。

いまどうでしょうか？ 不必要なものも以前と同様にやらされていませんか？ その活動の向こう側に子どもたちの顔が浮かびますか？ ずーっと遠くにうっすらでも浮かびますか？ 大人や行政や団体の都合でやらされている活動ではないですか？ 嫌なら、不要なら、やめるべきですし、唱えるべきです。

これを読まれている方の多くは、活動の実施や中止についてある程度の実行力がある方々だと思います。

「輪番」という強制で様々な役をやらされます。地区の代表や、○○の理事とか。なんならこの広報誌への寄稿も輪番です。

「子どもファースト」で疲弊し、「輪番」という強制で本人も納得できず楽しめない活動になってはいけません。

特に会長職の私は、会員さんをミスリードせず、本来あるべき姿へ導くべきと思い、今後も本校の校訓の一つ「自主」を重んじた活動に取り組みたいと思います。

（PTA会長　大坂　智也）

本校のPTA活動について

県立伊丹北高等学校

本校、兵庫県立伊丹北高等学校は、昨年（令和４年10月）に創立50周年記念行事を東リ・伊丹ホールで盛況のもと行い、改めて校訓の初心（つねに新しく未来に生きよう）・自律（自ら考え、甘えを克服しよう）・連帯（ともに高めあい、究めあおう）を教職員・生徒たちが心にきざみ今に至る総合学科の高校で、わが校のPTAは、創立以来学校とともに歩みを進めてまいりました。

現在のPTAは会長１名・副会長３名・総務２名・会計２名・会計監査２名の10名の役員で構成されています。また、役員の下に教養部・広報部・選考部が設けられており、いろいろな活動の企画・運営実施に携わっています。

ここ３年間ほどは、コロナ禍ということもあり、PTAの活動も全て中止とされてきましたが、昨年から少しずつ縮小してではありますが再開できるようになり、教職員や子供たち・地域の方々との交流も行えるようになってきています。

PTA主催の催し運営だけではなく、６月に行われる北高フェスティバル（文化祭）での制服リサイクル市や10月開催の体育大会での飲み物提供などの学校行事にも積極的に参加しています。

今、どこの家庭においても夫婦共働きという状況がほとんどを占め、役員を快く引き受けて下さる方が非常に減少しているのが現状です。それでも、ボランティア組織としてのPTA活動への理解と協力をどのようにして得ていくのかをこれからの課題として、子供たちの健やかな成長と学校教育活動のさらなる発展、なによりも子供たちを支える保護者・教職員及び地域の方々との連携を目指して、PTA活動のさらなる充実を考えていきたいと思っています。

（PTA会長　良雄　千鶴）

できる時間で気軽に参加を

県立川西明峰高等学校

川西明峰高校は、グローバルな取り組みとローカルな取り組みを通じて生徒が学ぶ機会を積極的に設けている学校です。海外研修やオーストラリア姉妹校研修、ホームステイ受け入れを行う一方で、地域の方々から学ぶ「明峰の学び」等、地域と一体となった教育活動にも力を入れています。こうしたグローカルな（地球規模の視野で考え、地域で行動する）教育活動から学んだことを生徒自身のキャリアへつなげていくことが本校の教育目標の柱となっています。また、2022年11月に本校はユネスコスクールの認証を正式に受けることができました。申請から５年、このユネスコスクールの認証を機に、生徒が本校で学ぶことの誇りを感じ、さらなる成長につながることを期待しています。

さて、PRはこれくらいにしまして、本校PTAは2023年度から役員体制を見直しました。今までは総務役員と学年委員、広報部、生活指導部、保健生活部といった役員を「入学式後のくじ引き」で人選していた体制でしたが、今年度から「総務役員とPTAボランティア」の体制に見直し、LINEアプリのオープンチャットでボランティアを募っています。現在、32名の方が登録してくださっており、ボランティアの皆さんのご協力をいただきながら事業を進めていくこととしました。

本校PTAの事業には、文化祭や体育祭への参画、社会見学や広報紙の発行、あいさつ運動や地域セミナー等を計画していますが、「楽しみながら」「できる人が」「できる時間で」ボランティアの皆さんと気軽に協力しながら事業を進めています。

2023年６月15日、16日に開催された文化祭ではPTAとして喫茶店ブースを出店し、生徒や保護者の休憩スペースとして多くの方に利用していただきました。今後も生徒たちを支えるPTAとしても楽しみながら、できる限りのサポートをしていきたいと思います。

（PTA会長　川北　将）

質実剛健の伝統、県立西宮高校PTA

県立西宮高等学校

1919年設立の兵庫県立西宮高等学校は創立百年を越え西宮で一番の伝統を持つ県立高校です。商業学校として創立され、西宮各地を転々とし、現在では日本で二番目に指定された文教地区である上ヶ原文教地区に位置しています。地域では「県西」と親しまれ、質実剛健の校訓のもとで生徒たちは厳しくも楽しい高校生活を送っています。

また、県立高校としては唯一音楽科を持つ高校でもあります。県西PTAの大きな特徴として、音楽科の保護者がPTAとは別に組織する楽友会があります。音楽科の演奏活動の支援など独自の活動を実施しています。

同窓会とPTAの関係の強さも県立西宮高校の特徴です。歴史のある学校なので同窓会の人材も豊富で、学習環境への支援でも大いに助けていただいています。百周年を記念して建てられた百年記念館では同窓会とPTAが同じ部屋で活動しています。

他の例にもれず、PTA活動もコロナ禍により大きく影響を受け、大半が休止となりました。PTA総会も書面開催となりほとんどの会員が顔を合わせることが無い中で細々と活動を続けました。一方でメールやSNS、ホームページやWeb会議など活動のデジタル化を進めました。

今年度からは集まっての活動も再開し、県西祭（文化祭）へ参加しての生徒たちとの交流、制服リユース活動、花壇整備なども進めています。また、性の多様性や個性の尊重などに対して学校の取り組みが進む中、PTAも学校制服のあり方などの議論に参加するなど新しい活動も始まっています。

形は変わっていきますが、子供の教育に保護者として関われる嬉しさを感じられるような活動を続けていくことを県西PTAは目指します。

（PTA会長　宮城　愛）

‘Student-Focused’ and ‘Simple is Best’

県立三田西陵高等学校

2022年、私たちの学校は30周年を迎え、PTAの贈り物は学校のWi-Fiネットワークを体育館に拡大することでした。体育館にWi-Fiを追加すると、生徒と教師の学習機会が増えます。この贈り物のアイデアは、教育目標を達成するために生徒にとって最も役立つものは何か、学校行政との議論を通じて考え生まれました。

過去５年間、PTAは２つの優先事項を強調してきました。まず、私たちはすべての活動でStudent-Focused「生徒に焦点を当てる」ことを意識してきました。すべての計画会議では、「計画されている活動は、生徒にとってより有意義な教育体験につながるのか？」と問います。また、「教師と学校のスタッフは、私たちの活動によってサポートされ、励まされていますか？」と問います。これらの質問の両方に自信を持って「はい」と答えられない場合は、計画と目標を再評価します。この優先事項を持つことで、私たちはPTAの有効性を継続的に強化できると信じています。

第二に、私たちのメンバーを尊重し、より多くの保護者の参加を促すために、私たちはSimple is Best「シンプルが最善」という方針を持っています。過去５年間、私たちはより良いコミュニケーションに取り組み、目標を達成するために必要な会議や活動の数を再考し、スムーズなリーダーシップの移行を確保する方法を考えてきました。「シンプル」であることで、PTA内での交流時間が増え、目標を達成するのに役立ちます。

最後に、私はPTAでのボランティア活動を通じて、公共の場で話すこととリーダーシップのスキルを成長させることができ、多くの新しい方々に出会えたことに感謝しています。

（ＰＴＡ会長　トムソン ピーター）

開拓者精神を胸に未来に翔け!!

県立氷上高等学校

本校は、昭和22年に「兵東農蚕学校」として創立し、翌年に兵庫県立篠山農業高等学校氷上分校として開校しました。最初に定時制課程農業科が設置され、その後、全日制課程畜産科の設置、全日制課程農業科の設置、昭和38年に兵庫県立氷上農業高等学校として分離独立し、全日制課程、農業科・畜産科・農芸化学科・生活科の設置。その後の変遷を経て現在の兵庫県立氷上高等学校と改名、生産ビジネス科、食品ビジネス科、生活ビジネス科からなる職業高校として地域に根ざした学校として役割を果たしています。

氷上高等学校の校訓は『開拓者精神』です。この理念の基に「基礎・基本の力」、「自分で考える力」、「自ら行動する力」を身につけ、地域の未来を切り開いていく人材を育成するという使命を持って、生徒の夢の実現を応援しています。

部活動においては、運動部、文化部ともに熱心に活動をしており、その中でも女子バレー部は全国大会の兵庫県代表としての知名度も高く、県内各地から実力者が集まってきます。

ここ数年、新型コロナウイルスの影響で外部実習なども控えてきましたが、５類移行に伴い、行動の緩和がようやく叶い、道の駅「おばあちゃんの里」においては、校内で製造したクッキー等の商品の対面販売実習をはじめ、長野農業実習など、ようやく生徒たちに笑顔が取り戻せたように思います。

８月に開催されたオープンハイスクールでは３学科での体験実習や部活動の体験など、参加した中学生と生徒とのコミュニケーションも図れるようになりました。夏休みとは言え、各学科共に実習活動には力と入れており、未来の即戦力育成に向け、先生たちの意気込みも感じ取れます。

11月にはメインの学校行事である桃陵祭も計画されており、各クラス生徒を中心にPTAからもイベントに参画し、盛り上げたいと考えております。

（PTA会長　久山　正己）

子ども達とPTA、創立100周年を迎えて

県立明石高等学校

本校は今年、創立100周年を迎えました。それを記念しまして様々な事業が開催されます。まずは第１弾として、昭和８年８月の明石中学対中京商業の試合、高校野球史に残る「延長25回」という激闘の偉業を称え、中京大中京高校を招待し、野球大会を開催します。

次に日本の標準時である子午線の天体観測が、昭和７年当時、本校敷地内において日本で初めて行われたことを記念し、同じ場所で「星を見る会」を開催します。また、県下高校で唯一の美術科の生徒たちと卒業生による「記念美術展」の開催、記念式典、記念講演、祝賀会、記念石碑、庭園の整備、資料館の増築など、本当に多くの事業が計画されており、PTA、保護者としましても、子ども達がこの良き日を、在学生として経験することができることを大変うれしく思います。

さて、このような多くの100周年記念事業を開催してゆくにあたり、聞こえてきますのがPTAの負担軽減というお話です。本校PTAでは「出来る人が出来る時に出来る事を」を合言葉に活動しております。また、積極的に負担軽減に取り組んでおり、昨年から今年にかけて、広報誌の廃刊、研修事業・大学見学会の廃止、会費の減額、会議回数を減らすなど行っています。その上で、子どもたちのためになる活動を行うことに軸足を移しており、校内複数個所へのAEDの設置、体育大会でのドリンク配布、制服リサイクル、あいさつ運動、自転車マナー向上、文化祭での原価割れ出店、生徒会自主企画事業への予算割り当てなど、保護者に対しての活動ではなく、子どもたちの方を向いた活動に重きをおいております。

最後に私たちが、100周年記念事業への参画や普段のPTA活動をやる上で、大切にしていること。それは「家庭のこと、仕事のことを必ず優先してください」ということです。

「一に家庭、二に仕事、三、四に何かあって、五にPTA」このぐらいで丁度良いのではないでしょうか。

（PTA会長　吉川　由祐）

創立100周年を迎えて

県立北条高等学校

本校は、大正12年に開校した北条実科高等女学校を源流とし、昭和23年に県立北条農業高等学校と統合されて新制の兵庫県立北条高等学校として誕生し、今年度は創立100周年を迎えました。

記念すべき創立100周年のこの節目の年に、PTA会長を務めさせていただくことは、とても光栄なことであると同時に、大変緊張し、身の引き締まる思いがしております。

さて、新型コロナウイルスの流行が始まってからはや３年が経過しました。マスク着用が個人判断となり、感染症法上の分類も５類に引き下げられるなか、厳しい行動制限がかかっていた学校行事等も徐々に本来の活動に復活しつつあり、本格的にウイズコロナの状況となってまいりました。

このように大きく変化する社会において、私たちは学校の役割や存在意義について改めて考えさせられることとなりました。時代の変化や社会の動きに対応しながらも、学校が果たすべき使命は変わることがありません。学校は子ども達が知識を身につける場所であると同時に、人間性を育む場所でもあります。

今年度PTAでは、【㊗創立100周年子ども達とともにみらいへ～太陽のような眩しい笑顔を応援します～】を令和５年度スローガンとして、今まで以上に学校とPTA、そして地域との連携を深めながら、よりよい学校づくりに取り組んでいくことを活動方針としています。

令和５年度　北条高等学校　PTAスローガン
祝　創立100周年　子ども達とともにみらいへ
～太陽のような眩しい笑顔を応援します～

子ども達が、自分の将来を見据えて目的意識をしっかりと持ち、悔いのない実り多い高校生活を送り、３年後には北高生として誇りと責任、伝統を胸に刻んで羽ばたいてくれることを願い、全力でサポートをしていきたいと考えています。

北高祭サプライズゲストと本部役員

創立100周年の節目をゴールではなく通過

点としてとらえ、光り輝くバトンを受け継ぎ、新たなスタートとして次の100年へとつないでいけるようPTA活動を展開してまいります。

（PTA会長　荒木　邦和）

人と環境の三木北高校

県立三木北高等学校

本校は、昭和58年開校した三木市内では一番新しい高校です。

令和４年に兵庫県教育委員会より兵庫県立三木東高等学校と兵庫県立吉川高等学校との統合が発表されました。統合校は兵庫県立三木東高等学校の校地を使用することが決定しています。

人と環境の三木北高校として、平成22年度「人と環境類型」を設置。平成24年度、兵庫県では県立高校初の「ユネスコスクール」に認証されました。「環境教育」「地域連携教育」「国際理解教育」の３つを本校の教育の柱としています。

特に「環境教育」の取り組んでおり①㈱ユニクロの社会貢献活動。使わなくなった子ども服を地域の幼稚園やこども園等から回収して、世界の難民キャンプに寄附します。 ②宮城県南三陸町・志津川高校との交流。毎年３月に本校野球部員と志津川高校野球部員が交流を行います。 ③緑が丘駅前清掃。 ④伽耶院のカタクリ植栽。総合科学・環境研究部の生徒がカタクリの植え付けや、案内・おもてなしのボランティア活動を行います。 ⑤グリーンカーテン。校舎南側壁面にゴーヤ、アサガオ、風船かずらを植栽し、グリーンカーテンを作ります。

「地域連携教育」の取り組みとして①インターンシップ。保育・看護・医療への進学希望、就職希望者を対象に地域の企業や施設・医療機関において、インターンシップを行っています。 ②のじぎく特別支援学校とのサッカー交流。 ③「Ｂｙｅバイキンプロジェクト」・「子ども食堂」令和元年度は家庭研究部の生徒が無添加のせっけんを作り、地域のこども園に配布。また、例年長期休業中に地域交流施設「おおきなき」で子ども食堂の運営に協力しています。 ④赤ちゃん先生招聘（インスパイアハイスクール）。

「国際理解教育」の取り組みとして①平成29年、オーストラリアのフェデレーション市から６名の生徒と５名の引率団の方々が来校されました。 ②令和元年度はカンボジアのMinami Japanese SchoolとSkype交流。 ③三木市在住の外国人の方々を本校にお招きして、クラスごとに人権ＨＲを行いました。

以上のような多様な社会参加の機会が多い三木北高校の特徴を統合校に引き継いでいけるよう、環境の変化に合わせたＰＴＡ活動に取り組んでいきたいと思います。

（育友会長　山岸　豪紀）

子ども達の応援団

県立農業高等学校

本校は明治30年に明石城跡に兵庫県簡易農学校として創立しました。その後、名称変更や加古川市への校舎移転などを経たのち、現在の兵庫県立農業高等学校となり創立126年となります。

県下最大の農業高校である県農は、農業科、園芸科、動物科学科、食品科学科、農業環境工学科、造園科、生物工学科とそれぞれの特色のある７学科があります。全ての学科に共通して、農業を通じて命の大切さ、互いに思いやることを学び、自立精神を育むことにより心豊かな人となるよう先生方からたくさんの学びを得ています。

ＰＴＡでの活動につきましてはコロナ禍により活動出来なかった期間が長かった為、今までの活動を知らないＰＴＡ役員さんばかりになっているのが現状です。ただ、この制限期間がマイナスばかりだったというわけではなく、今まで慣例でやっていたもので必要ないことなどについて、少し立ち止まって考える機会を得たのではないかと思っています。

そんなこんなで今年度は手探りの状態ではありますがイタリアンシェフを招いての講演会や秋には芸術鑑賞会への支援、生活指導委員会が行う朝のあいさつ運動、広報委員会の広報紙発行、研修教育委員会の研修旅行等、少しずつではありますが活動をスタートさせています。

県農の校訓にもあります「ゆたかな情操、たゆまぬ研鑽」のもと、子ども達がしっかりと地に足をつけ未来に向かって進めるように校長先生をはじめとする先生方、地域の方々と連携を取り、サポートしていきたいと思っています。

そして大きなことは出来ませんが、どの子も笑顔で学校生活を過ごしてもらえる為の応援団として、次の役員さん達に繋いでいけるよう活動していきたいです。

（ＰＴＡ会長　四方　麻美）

こどもたちに伝えたいこと

県立姫路別所高等学校

本校は姫路市の東の端、国道二号線から１キロ北上した山のふもとにあります。生徒たちは毎朝、約500メートルの坂道を力いっぱい自転車を漕ぎ登校しています。街の喧騒を感じず、鳥のさえずり、虫の声、風にそよぐ木々の葉の音が聞こえる恵まれた環境です。

本校のスクールミッションは、【〈友愛　責任　自立〉を理念に、多様な世の中の変化に対応した学力、豊かな心や共生の心を備え、生涯を通じて未来を切り拓き、粘り強く自己実現に挑戦し続けることのできる人材を成する】とあります。

わたしは、これらを実現するにはまず一人一人が『自分を大切に出来ること』だと思います。命はもちろん、身体、心、意見など。本当に困った時、苦しい時は、弱音を吐いて良いのです。

幼いころからの刷り込まれた価値観で社会全体がネガティブを良しとしない風潮がありますが、弱音は、心のメンテナンスに欠かせない大事な役割を担っているのです。

今後、社会に出ると、学生時代よりもさらに、理不尽なこと、深く傷付くことは必ずあります。そんな時の自分の気持ちの整え方、かわし方を先生方や保護者が見守ることが出来る今、高校生のうちに習得しておいてほしいと思います。

そのためには、日頃より子どもたちとのコミュニケーションを大切にし、信頼関係を築いていくことが私たちの使命だと思います。

（PTA会長　小林　純子）

社会づくりに貢献

県立太子高等学校

本校は昭和45年に創立され、平成19年度に現在の総合学科に改編されました。

本校では「自立進取」「和衷敬愛」「質実剛健」の校訓のもと主体性・創造的に生きる力と他とつながる力を備え、より良い社会づくりに貢献できるよう育成しています。

教育活動として「太子メソッド」「プレゼンテーション」「アクティブ・ラーニング」「国際理解教育」「地域貢献活動」「高等学校における進級指導」を取り入れています。

ＰＴＡは本部役員と厚生・研修・生活指導・進路対策・広報の５つの委員会、各年次の委員で構成されています。

本年度はコロナが落ち着いた事で中止、縮小されていた行事が通常通りに開催されます。

最初の行事として文化祭が開催されました。保護者の皆さんにも参加して頂き、学校での様子を見て頂く事が出来ました。模擬店も出店し生徒の皆さんと共に楽しい時間を過ごし、たくさんの笑顔を見れる事ができ楽しい文化祭となりました。

（ＰＴＡ会長　中上　貴子）

時に少ないことは利点もある

県立千種高等学校

名水百選に名を連ね、加古川、市川、揖保川、夢前川と並び播磨五川とも呼ばれる千種川の源流部、緑豊かな山あいにあるのが県立千種高等学校です。

そうですね、確かに山の中です。人や建物よりも圧倒的にスギやヒノキの方が多いです。ですが日本の国土の60％以上が森林なので都心部以外はそんなにかわりませんね。それでも人口の減少は加速しています。そう、都心部から離れれば離れるほどに。子どもの数は言わずもがな、、、その流れを受け、一時は廃校が危ぶまれましたが、進路に応じた少人数指導への切り替えで進学、就職と実績を上げてこられました。県内でも公立高校の再編計画が打ち出され、小規模校の増加が見込まれる中での高校存続の成功例となったのは喜ばしい限りです。一学年一学級とはいっても三つの類型に分かれ、授業の細分化による先生方の負担は大きくなっ

ています。それでも自然に囲まれてのびのび育った子ども達には「素直な子が多く指導にも熱が入ります」との言葉をいただき、感謝するとともにＰＴＡとして、一親として自分の子どものためにもできる限り協力しようと改めて思いました。そして県下初の試みとして平成22年度から「宍粟市千種中学校」との『連携型中高一貫教育校』に改編され、連携行事・連携授業など特色ある取り組みで、地域性も含め温かい雰囲気となっています。地域性という言葉をだしましたが、くだけて言うなら「田舎らしい」ですね。『地域の子どもは地域が育てる』を理念に町ぐるみで学校をサポートしてくださっています。市も県内の高校では初の給食の提供を始めてくださるようになり、数々の取り組みが評価され、今では町外からも生徒が集まるようになりました。生徒同士の交流も増え切磋琢磨している姿がとても眩しくみえます。これから自分の未来を見据え、考え行動する姿勢を連携一貫校生として学んで欲しいと思います。

（ＰＴＡ会長　小松　伸）

飾磨工業高等学校PTA活動について

県立飾磨工業高等学校

本校は昭和10年に「飾磨町立飾磨商業実務学校」として開校し、昭和23年に現在の「兵庫県立飾磨工業高等学校」へ学校名を変更し、令和７年には90周年を迎える歴史有る学校です。

本校には全日制課程と多部制課程が有り、全日制課程では機械工学科、電気情報工学科、エネルギー環境工学科の３学科、多部制課程では基礎工学科が有り、生徒はそれぞれの目標に向けて日々勉強に取り組んでいます。教員の皆さんは、社会に出てから活躍する生徒を育成する為、各種資格・免許の取得に力を入れ、丁寧に指導されています。各企業からの求人数が県内でもトップレベルである事が、地域の信頼の証だと思います。

本校のＰＴＡ本部役員は、会長１名、副会長２名、会計３名、書記２名、監事２名の10名体制で組織されおり、体育・保健委員会、文化委員会、研修委員会、補導委員会の各専門委員会に分かれ、活動を行っています。体育・保健委員会ではＡＥＤ講習会、学校保健委員会出席等、文化委員会ではＰＴＡ会報の編集と発行、研修委員会では研修教室・研修旅行の企画、補導委員会では警察・ＰＴＡ・職員合同交通指導、ゆかた祭り補導等を行っています。全体のＰＴＡ活動として、年３回の評議員会、ＰＴＡ総会、体育大会ＰＴＡ競技参加、飾工祭への参加等があります。

今年度より少しずつ本来の学校生活が戻り、活動が再開できる環境となってきました。次世代を担う大事な子供達。地域の未来・日本の未来を担い、自分の意志・判断で行動ができる人材を育てる為、少しでも子供達に寄り添い、学校・地域・保護者のパイプ役として活動していきたいと思います。

（ＰＴＡ会長　山本　大輔）

出石高校のPTA活動について

県立出石高等学校

本校は但馬の小京都と呼ばれ風情のある街並みを今に残す出石町にあります。

今年で創立116年を迎え、出石町で活躍する多くの諸先輩方を輩出してきました。現在生徒数は221名。１学年２クラスと小規模ながらも普通科のなかに文化創造類型、人文類型、文理探求類型と特色ある３つのコースを設け、生徒の希望に沿った高校での学習が選択できるようになっています。

ＰＴＡ活動の主なものとして校内体育大会への参加、年２回の生徒会との話し合い、地域の方々とともに参加する陶芸教室、就職希望生徒のための学校外で行う模擬試験、「スマイルカフェ」と銘打って校内文化祭にバザーの出店、マラソン大会の応援にお城まつりに生徒たちとともに参加するバザーなどがあり、生徒先生方と関わり合いながら役員互いにに力を合わせ情報交換を重ね、それぞれの活動に取り組んでいます。

生徒たちが健康で安全に学校生活を送り、その中で勉学に励み社会や地域との交流の中で力をつけ目標を見つけること、その目標が達成されることを切に望い、私たち役員はその応援に力を注いでいます。

自分自身の力で考え歩んでいく、自立することが最大の目標です。関わり方は難しいですが

しっかり見守っていかなければなりません。

少子高齢化の進む地方の町ですが、出石の町の魅力を感じ、地域に関わりたいと考え、地域の一員として活躍する次世代が一人でも多く育ってほしいと願っています。

（ＰＴＡ会長　長尾　家典）

浜坂高校の地域連携とPTA

県立浜坂高等学校

昭和23年に創立し、75年の歴史と伝統をもつ浜坂高校は、兵庫県の最北西部の新温泉町にあり、地域の学校として愛されています。学舎は、「日本の白砂青松100選」に選ばれた「浜坂県民サンビーチ」そして、世界ジオパークに認定されている「山陰海岸ジオパーク」を臨む、風光明媚な場所に立地しています。

本校は普通科の高等学校で、その普通科を「特進コース」と「総合コース」に分け、生徒一人一人の適性に応じた丁寧な指導により、幅広い進路志望に対応しています。町内唯一の県立学校として、地域の未来を担う人材の育成を期待されており、地域の豊かな資源を生かした学習に力を入れています。加えて特進コース内に設置している「グローカルキャリア類型」では、国際的な視点を育むために台湾の姉妹校との交流行事なども展開しています。

ＰＴＡ役員は、会長１名、副会長３名、監事２名、地区理事16名、学級委員12名の34名で構成されています。ここ数年は、新型コロナウィルスの流行によってＰＴＡ活動が縮小されましたが、文化厚生部・生活指導部・進路指導部・学級学年部は、それぞれ各部ができることを話し合い、活動してきました。今年度は制限が緩和され、例年どおりの活動ができることを、大変うれしく思います。

ＰＴＡとして、本校が掲げる地域連携を軸にした教育のために、生徒と先生方をしっかりと支援していきたいと思っております。また、ＰＴＡ活動を通して地域の大人が繋がり、地域の未来を語り合う、そんな楽しい場にしたいと思っています。

（ＰＴＡ会長　下田　直也）

保護者は生徒の応援団

県立淡路高等学校

本校は大正12年３月末、旧津名郡野島村、仁井村、富島村、浅野村、育波村、室津村の６ケ村組合津名郡北淡実業学校として創立され、今年、令和５年度に創立100周年を迎えます。淡路島内でも古い歴史を持つ学校で卒業生も１万７千人を超えました。

平成10年度からは農業科、食品加工科、生活科、普通科を総合学科に改編され、校名も淡路農業高等学校から淡路高等学校と改称されました。創立以来、多くの地域の皆様方のご支援を受け発展してきました。

教育目標には３つの柱を設け、１、将来社会を担う人材を育成する。２、地域社会の一員として自覚と責任感を養う。３、社会性の豊かな人間性を育む。

この基本方針を元に、４つの特徴ある系列に分かれ、ライフサポート、調理、まなび研究、花と緑と海のめぐみ、の４系列を設置してそれぞれの目標に向かって学習します。

この原稿を書いている今は高校野球の甲子園の真っただ中です。選手、監督、応援団とみんなが全力を出し切っています。子供たちの真っすぐな姿勢にいつも感動を覚えます。

学校生活の中では、子供たちが選手で、先生方が監督、コーチ、我々保護者が応援団、私はこのＰＴＡ役員として一生懸命ＰＴＡ活動に取り組み、生徒の後方支援をしていきたいと思います。

１年間宜しくお願い致します。

（ＰＴＡ会長　岩隈　亮介）

兵庫が育む　こころ豊かで自立する人づくり

～「未来への道を切り拓く力」の育成～

兵庫県教育委員会

兵庫県公立高等学校ＰＴＡ連合会の皆様におかれましては、平素より、本県の教育行政の推進にご支援いただくとともに、身近な存在として、学校を支えていただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

さて、国では、今年６月に今後の教育の方向性を示す第４期教育振興基本計画が閣議決定されました。将来の予測が困難な現代の社会情勢をふまえ、今回の計画は2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成、日本社会に根差したウェルビーイングの向上を総括的な基本方針としています。高等学校については、確かな学力の育成、幅広い知識と教養、専門的能力、職業実践力の育成を図るため、普通科改革や探究・ＳＴＥＡＭ教育、学校の特色化・魅力化促進などを内容とする高等学校教育改革が基本施策に掲げられているところです。

また、兵庫県においては、県の教育基本計画「第３期ひょうご教育創造プラン」が最終年度となっております。変化の激しい時代だからこそ、これまで兵庫が大切にしてきた「心の豊かさ」を「不易」としつつ、「流行」（新しい変化）とともに成長し、自立する人づくりを目指して第４期プランの策定に向け検討しているところです。

県立高等学校においても、社会の変化に柔軟に対応し、「学びたいことが学べる魅力と活力ある学校づくり」に向けて、「県立高等学校教育改革第３次実施計画」に基づき、ＳＴＥＡＭ探究科や文理探究科、地域科学探究科など、探究活動を学びの軸に据えた新しい学科を設置し、県立高等学校の魅力・特色づくりの推進に向けた普通科新学科の改編を進めています。

また、県立特別支援学校では、高等部を卒業した生徒の自立と社会参加に向け、個々のニーズに応じた進路実現を目指すため、地元企業や福祉事業所などと連携した生徒の実態に応じた指導を推進しています。また、生徒が身に付けた就労に関する力を公的に証明する技能検定を実施するとともに、技能検定を企業や事業所、保護者など、広く県民に公開することで、障害者雇用や特別支援教育への理解啓発を図っております。

魅力や特色ある学校づくりには、地域の方々や自治体、企業など、地域社会と協働することが重要です。県教育委員会では、県立高校や特別支援学校において、学校が進める特色ある教育を地域社会が応援する仕組みづくりとして、「兵庫県版コミュニティ・スクール」の取組を進めています。

また、ＰＴＡ活動については、「ＰＴＣＡ活動支援事業」を通じて、ＰＴＡが核となり、学校や地域の特色を生かした家庭教育支援や学校支援の活動、子どもの安全・安心を守る取組を支援することで、「地域とともにある学校」づくりを進めてまいります。

兵庫県公立高等学校ＰＴＡ連合会の皆様には、学校・家庭・地域を結ぶネットワークの要として、「兵庫県版コミュニティ・スクール」の推進並びにＰＴＣＡ活動の充実にむけてご協力をお願いするとともに、皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

事務局だより

兵庫県公立高等学校ＰＴＡ連合会会員の皆様には、平素から各事業へのご支援とご協力をいただき、深く感謝申し上げます。

さて、今年度は７月に第48回近畿高Ｐ連滋賀大会、８月には第72回全国高Ｐ連石川大会が、現地参加およびオンライン参加での開催となりました。兵庫県からは、多数の方々にご参加いただきありがとうございました。

ご案内のとおり、12月２日に兵庫県高Ｐ連研究大会が淡路市立しづかホールで開催されます。今年の担当は淡路地区で、主管校の淡路高校をはじめ実行委員会のＰＴＡの皆様及び先生方には大変なご尽力をいただいております。ありがとうございます。

大会において、ＰＴＣＡ活動の研究成果を発表いただいた指定校の各会長様、また「高Ｐ連ひょうご」に寄稿いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。

今後の行事予定

○令和６年１月19日（金）
　兵庫県公立高等学校ＰＴＡ連合会第３回理事会
○令和６年７月15日（月・祝日）
　第49回近畿大会（京都）京都国際会議場
○令和６年８月22日（木）～23日（金）
　第73回全国大会（茨城）　場所：未定